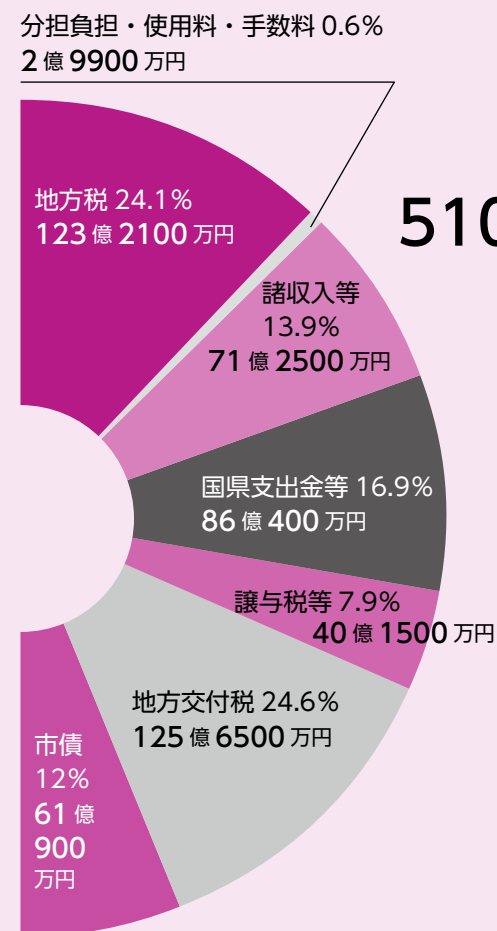


令和6年度決算を公表 安曇野市の家計簿

令和7年9月定例会で市の一般会計の決算が認定されました。決算の概要と財政状況をお知らせします。

一般会計の歳入

510億 3800万円
(前年度比+1.2%)



皆 さんは給料などの収入と食費や光熱水費、ローンなどの支出を計算しながら生活していると思います。こうした家計のやりくりと同じように、市では1年間にいくらか収入があり（歳入）、いくらか支払いがあるか（歳出）を見積もり、計画を立てて行政運営をしています。これを予算といい、予算に基づいてやりくりした結果を決算といいます。

令和6年度一般会計の決算額は歳入510億3800万円、歳出498億700万円となり、令和5年度と比べ歳入は1.2%増え、歳出は1.1%増えました。歳入から歳出を引いた額は12億3100万円です。令和7年度に繰り越す財源2億9800万円を除いた実質的な収支は9億3300万円です。黒字となりました。

借金は減っている？

市の借金である市債とは、公共事業などの財源として国などから借り（）

るお金を言います。市債には、返済金（償還金）の一部が国から交付される地方交付税で補填されるものがあり、市の実質的な負担が少なく抑えられています。

市では、①整備を行うハード事業の厳選②有利な市債メニューの積極的な活用③将来返済する負担の把握の3つに重点を置いて、慎重に市債を発行しています。こうした取り組みにより、公営企業債を含む令和6年度の市債残高は令和5年度に比べて31億2000万円減りました。また借換分を除いた令和6年度一般会計の市債返済額50億8900万円のうち、



市の財政は健全？

自治体の財政状況の健全度を示す「健全化判断比率」には実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率があります。市の一般会計や公営企業会計等の決算は黒字であるため、収支が赤字になった時に算定される実質赤字比率、連結実質赤字比率は算定されていません。

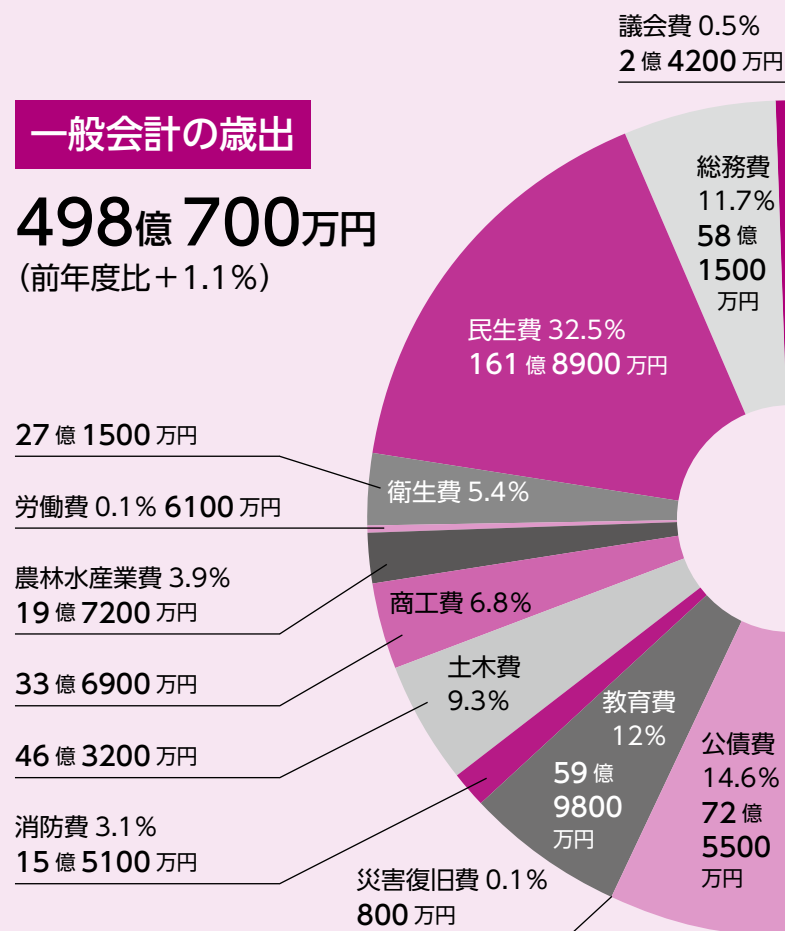
実質公債費比率は1年間の借金返済額の割合を、将来負担比率は将来負担すべき借金の割合を示すものです。市の実質公債費比率は前年度より0.4%減って7.9%、将来負担比率は算定されませんでした。いずれも国が財源の健全化を促す早期健全化基準を下回り、健全な財政運営を維持しています。

貯金はついているの？

市の貯金を基金と言います。市では将来のいざという時に備える財政調整基金、市債の返済金を確保する減債基金、公共施設を整備する公共施設整備基金の3つを柱として計画的な積立と活用を行っています。令和6年度一般会計の基金残高は197億5300万円、公共施設整備基金の活用などにより、令和5年度と比べて2億7800万円減りました。（上記表参照）

一般会計の歳出

498億 700万円
(前年度比+1.1%)

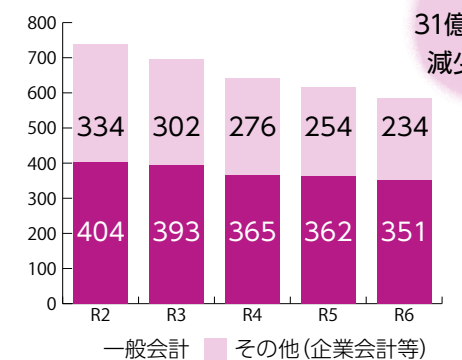


基金の残高（一般会計分）

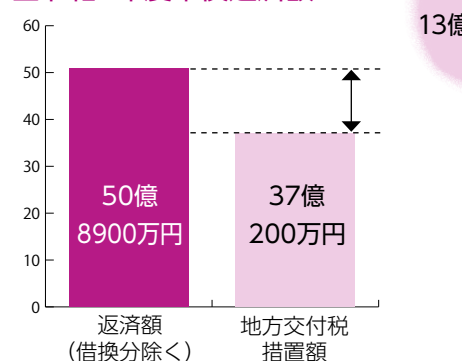
令和7年3月31日現在

財政調整基金	53億 7000万円
減債基金	30億 900万円
公共施設整備基金	51億 4600万円
その他	62億 2800万円
合計	197億 5300万円

市債残高の推移（単位：億円）



令和6年度市債返済額



市の実質負担は13億8700万円